

シャープゲンゴロウモドキ *Dytiscus sharpi* Wehncke

【選定理由】

本州ならびに佐渡に分布し、12 都府県から記録されているが、大多数の地域ですでに絶滅しており、現在残る生息地は数箇所しかないうえ、ペット業者やマニアなどによる密漁、外来魚による捕食圧、圃場整備による生息地の消失など高い絶滅の脅威にさらされている。愛知県ではこれまで本種と思われる古い採集記録が 1 例存在したが、標本が現存せず、検証できなかったために保留扱いとされていたが、2007 年に豊橋市で江戸時代中期の遺跡より本種の遺体が発見され、かつて県内にも分布していたことが確実となったため、今回新たに掲載された。

【形態】

体長 28～33 mm。オスは長卵形、メスでは卵形。背面はわずかに緑色を帯びた黒褐色で、前胸背は両側が黄色に縁取られる。腹面は暗赤褐色。後基節突起の先端は丸まる。メスの上翅には通常各 10 条の縦溝がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋市の江戸時代遺構から遺体が産出している(長谷川, 2007)他、江上(1943)が「コゲンゴロウモドキ *Dytiscus validus*」として瀬戸市定光寺から記録した種も本種である可能性が高い。

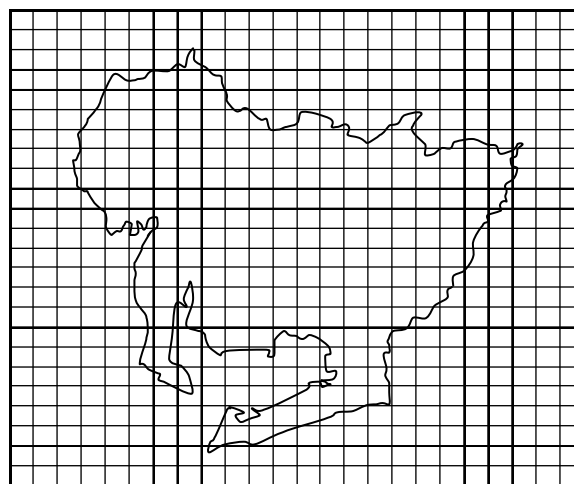
【国内の分布】

本州(千葉、東京、神奈川、新潟、富山、石川、福井、愛知、滋賀、京都、大阪、島根)、佐渡。

【世界の分布】

本州の特産種である。

県内分布図



【生息地の環境 / 生態的特性】

平地から丘陵地の水田、休耕田、放棄水田などに生息する。新成虫は 8 月～9 月に出現し、成虫越冬する。冬期でも水域で活動することが観察されている。

【現在の生息状況 / 減少の要因】

上記 2 例以外の生息情報はない。戦後の農薬の大量使用、生活污水などによる水域の汚染、圃場整備等による生息地の消失が要因として考えられる。

【保全上の留意点】

現在ある自然状況に近い池をそのまま保全することが、本種の将来的な自然回復の可能性を残す唯一の方法であるばかりでなく、多くの水生生物にとっても有効な保全手段となる。そのためにも脅威となる侵略的外来種の根絶が望まれる。遺伝的な多様性については詳しい研究がなされていないので、他地域からの安易な移入による人為的な回復を図るのは禁物である。

【引用文献】

長谷川道明, 2007. 愛知県豊橋市の江戸時代の遺構から発見されたシャープゲンゴロウモドキ. 豊橋市自然史博物館研究報告, (17): 25-28.
江上信雄, 1943. 名古屋市外 定光寺 付近の水棲昆虫. 採集と飼育, 5 (3): 78-79.